

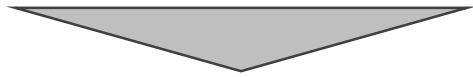
大阪市の都市再生の取り組み

2019年2月19日

大阪市都市計画局長 高橋 徹

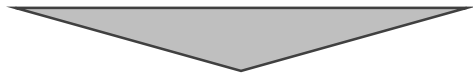
これまでの大阪の都市再生(Step I)

2002年 構造改革特区、都市再生特別措置法制定
工場等制限法廃止



2011年 国際戦略総合特区

関西イノベーション国際戦略総合特区



2013年 国家戦略特区

関西圏 国家戦略特別区域



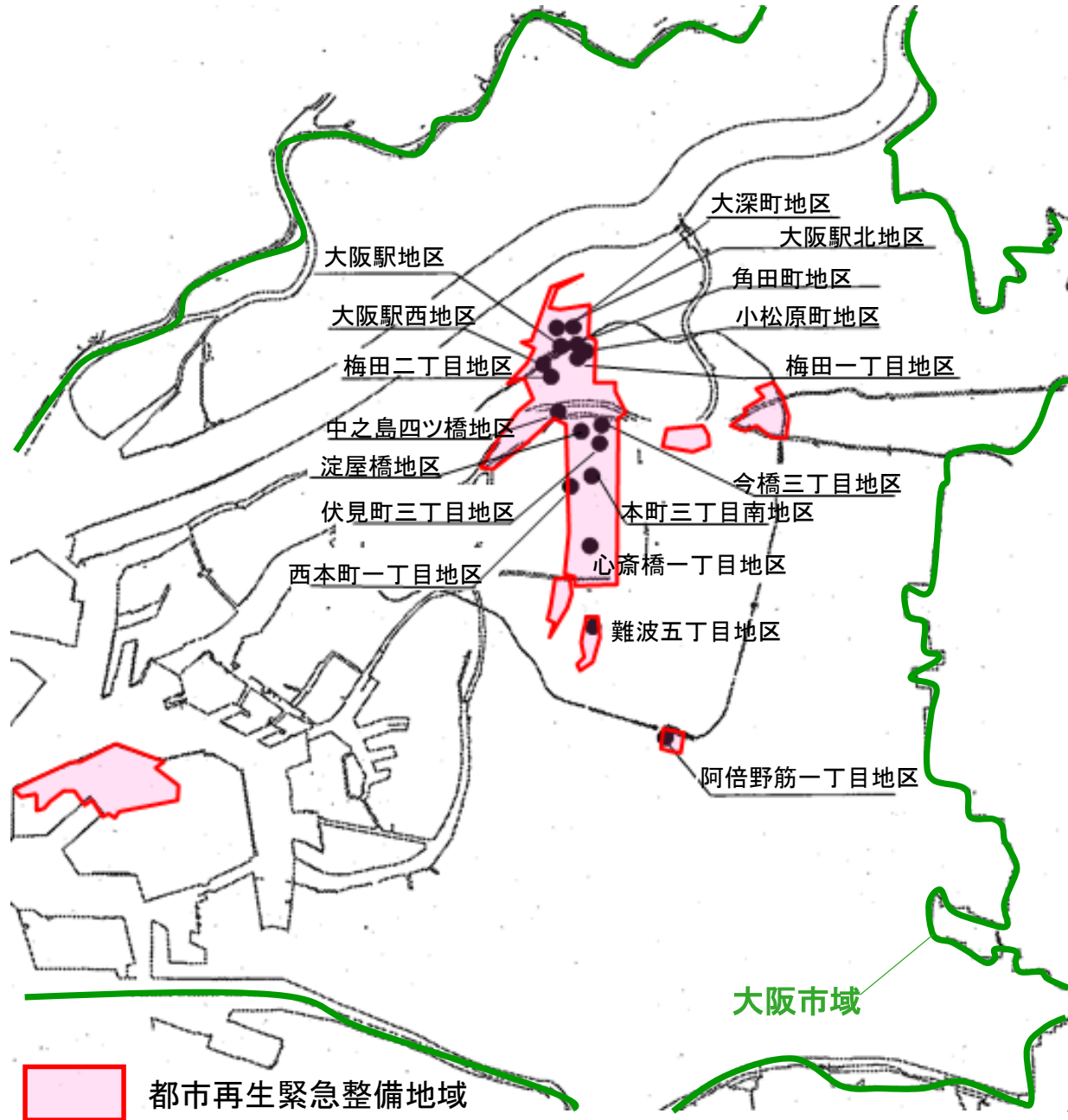
2018年 規制の「サンドボックス」制度

都市再生特別地区の活用

- 指定区域：17地区(総面積約38ha)
- 竣工済の建物総延床面積：約215万㎡
- 工事中の建物総延床面積：約55万㎡

都市再生のねらい

- 都市機能** ○知の集積・イノベーション
- 文化・芸術・交流
- 都市空間** ○広場や歩行者空間の充実
- 新しい景観の創出と保存
- 道路の上空利用



大阪市における都市再生制度等を活用した民間開発の取り組みと制度の効果

出典：関西大学HP

1. 知の集積～大学の都心回帰・誘導～

都市再生特別地区を活用したフコク生命ビル建替えにおいて、立命館大学等サテライトキャンパスの導入を契機に、周辺エリアでは、関西大学が2016年に開校、大阪工業大学が2017年に開校するなど、都心での大学回帰が進んでいる。
あわせて、スタートアップ支援施設を設置するなど、交流の場が創出されている。

また、2013年に開業したナレッジキャピタルでは、大阪市立大学、大阪大学、慶應義塾大学など多数の大学が参画している。

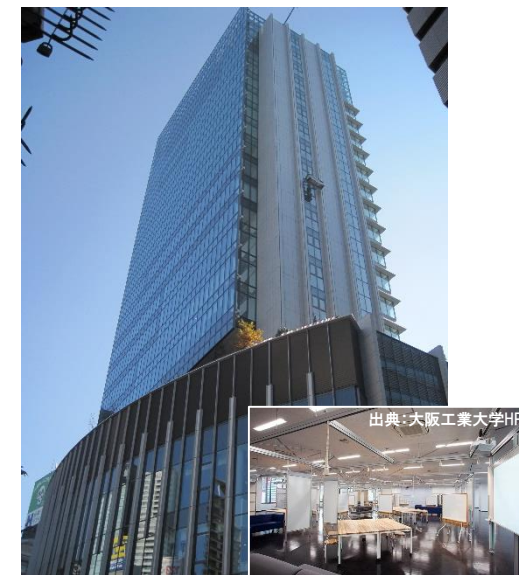
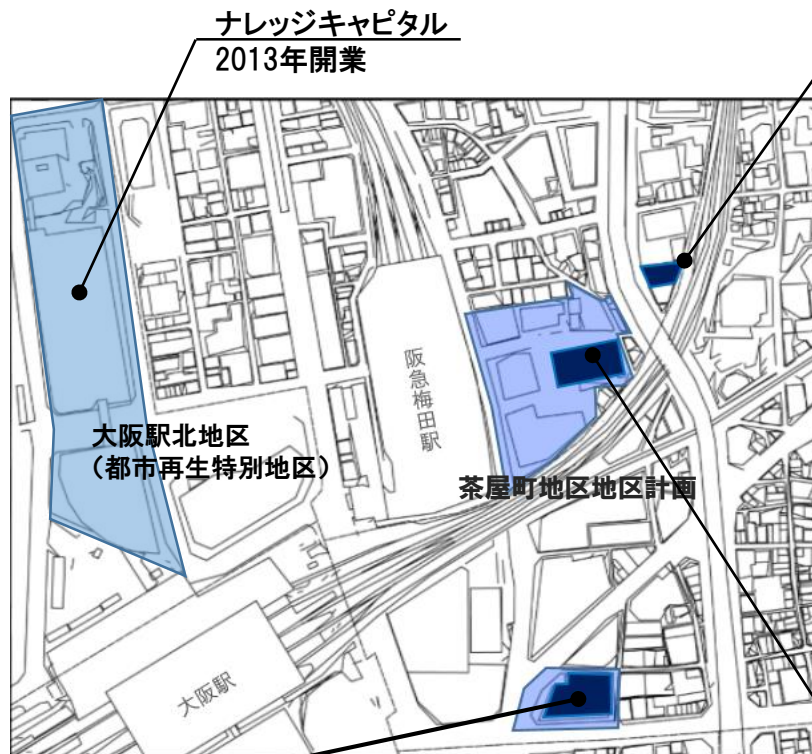


・関西大学 KANDAI Me RISE
2016年開校
スタートアップ支援のためのカフェ
START UP CAFE OSAKA を設置



○小松原町地区 都市再生特別地区
(大阪富国生命ビル)

- ・京都造形芸術大学
大阪サテライトキャンパス
2010年開校
- ・立命館大学 大阪梅田キャンパス
2011年開校



・大阪工業大学 OIT 梅田タワー
2017年開校
都市型オープンイノベーション拠点
X-portクロスポートを設置
(茶屋町地区地区計画を都市計画決定
梅田東小学校跡地)

出典：大阪工業大学HP

2. 知の集積～知の集積と交流～

○大阪駅北地区 都市再生特別地区（グランフロント大阪 2013年開業）



ナレッジプラザ



ナレッジキャピタル
コングレコンベンションセンター



出典：ナレッジキャピタルHP

ナレッジサロン

出典：ナレッジキャピタルHP



The Lab.

一日250万人の乗降客数を誇る大阪梅田の都心立地で、イノベーション創出に必要な交流・企画・開発・発信までワンストップで実現できる施設として、開業以来様々な活動を実施

○梅田一丁目地区 都市再生特別地区

（大阪神ビルディング及び新阪急ビル建替え 2022年竣工予定）

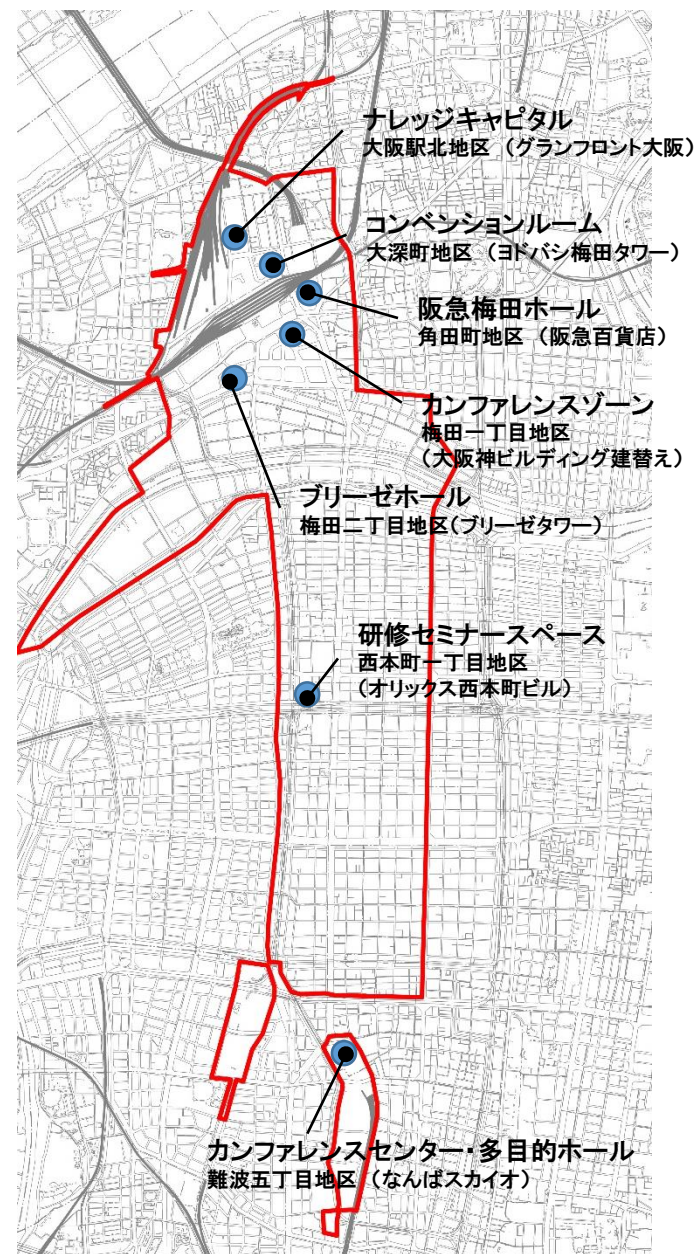
道路の重複利用制度を活用し、ビジネスの情報発信の場、人材育成の場となるカンファレンスゾーンをワンフロアで一体整備予定



○難波五丁目地区 都市再生特別地区

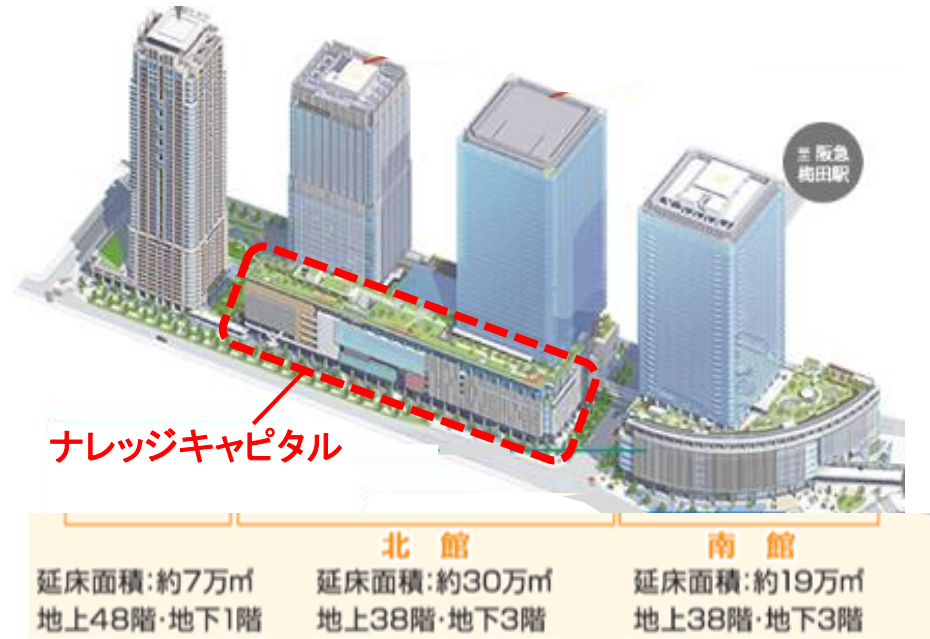
（なんばスカイオ 2018年開業）

訪日観光の中心的エリアであり、大阪の企業集積の中心軸である御堂筋に位置する難波で、国際的MICE拠点としての強化を図るため、新南海会館にカンファレンス機能・ホール機能を導入



参考：具体的な取り組み事例

【大阪駅北地区(グランフロント大阪)】



ナレッジキャピタル

北館

延床面積:約7万㎡
地上48階・地下1階

延床面積:約30万㎡
地上38階・地下3階

南館

延床面積:約19万㎡
地上38階・地下3階

<ビジネス機会の創出>

GLM (株)

電気自動車を開発・出展して
約100億円の資金を調達



電気自動車「Tommykaira ZZ」

(株) ミッドウェーソフトウェアデザインズ

サロンでの出会いから小学生が運用
できる図書館受付ロボットを開発



図書館受付AIロボット「雪丸」

【難波五丁目地区 (なんばスカイオ)】

～世界的シェアリングオフィス「WeWork」の関西初拠点誕生～

世界22カ国で25万人を超えるメンバー数を誇り、ワークスペースを起点としたオープンイノベーションを推進する米国発のシェアリングオフィス「WeWork」の関西初拠点を開設

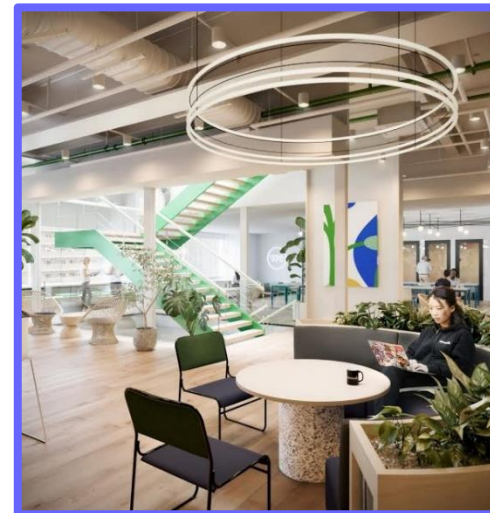
[ワークスペースの概要]

(1) 入居フロア 26階・27階・28階

(2) サービス開始 2018年12月

(3) サービス内容

プライベートオフィス、会議室、共用ラウンジなどの多彩なコワーキングスペースを提供



3. 文化 ～芸術ホール等の整備・リニューアルへの貢献～

○中之島四ツ橋筋地区 都市再生特別地区 (フェスティバルタワー)

都市再生に資する重要な公共
貢献要素として、国際的な文
化・芸術活動の拠点である、フェ
スティバルホールの機能継承・
グレードアップを実施

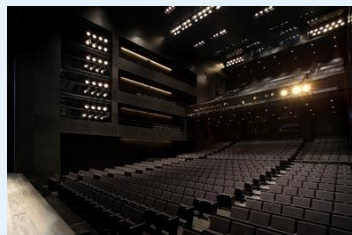


フェスティバルホール



○梅田二丁目地区 都市再生特別地区 (ブリーゼタワー)

既存の建物内にあったホール機
能を確保しながら、幅広いイベ
ントの開催が可能となるよう、音響
環境などのグレードアップを実施

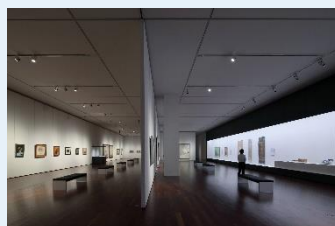


サンケイホール・ブリーゼ

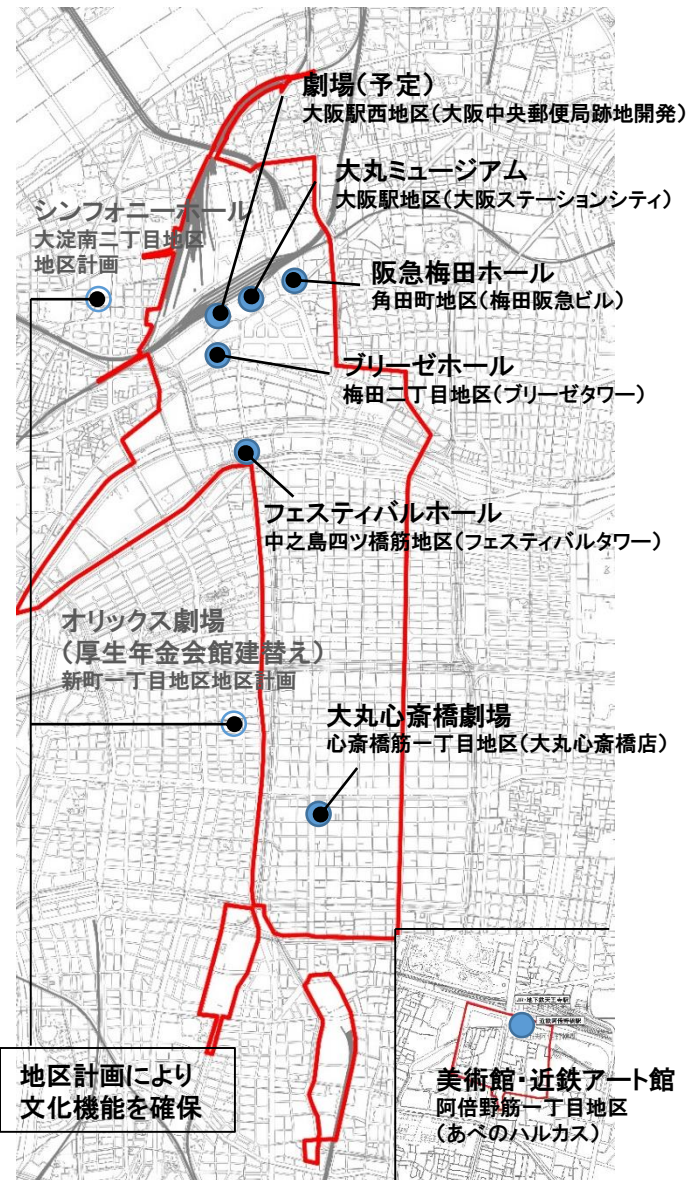


○阿倍野筋一丁目地区 都市再生特別地区 (あべのハルカス)

四天王寺や天王寺公園といった
歴史文化・自然にも恵まれ、住
宅ゾーンに近接する阿倍野の
特性を活かし、ターミナル上の
高層建築物内に位置する「都市
型」美術館を導入



美術館



大阪市における都市再生制度等を活用した民間開発の取り組みと制度の効果

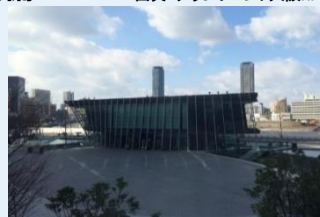
4. 都市の活力 ～新たな広場空間の創出と歩行者ネットワークの充実～

○大阪駅北地区 都市再生特別地区（グランフロント大阪）

大阪北口広場（うめきた広場）は、大阪の新しい玄関として、人々の交流や、賑わいを生む象徴的な空間として整備

出典：グランフロント大阪HP

都市再生特別措置法に基づく、道路占用の特例により、歩道空間を利用したオープンカフェを実施



うめきた広場



オープンカフェ

○大阪駅地区 都市再生特別地区（大阪ステーションシティ）

出典：大阪ステーションシティHP

南北の動線を充実することにより大阪駅周辺の回遊性が向上
時空の広場やアトリウム広場などダイナミックな空間を創出



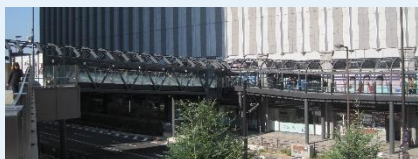
時空の広場



アトリウム広場

○大深町地区 都市再生特別地区（ヨドバシ梅田タワー）

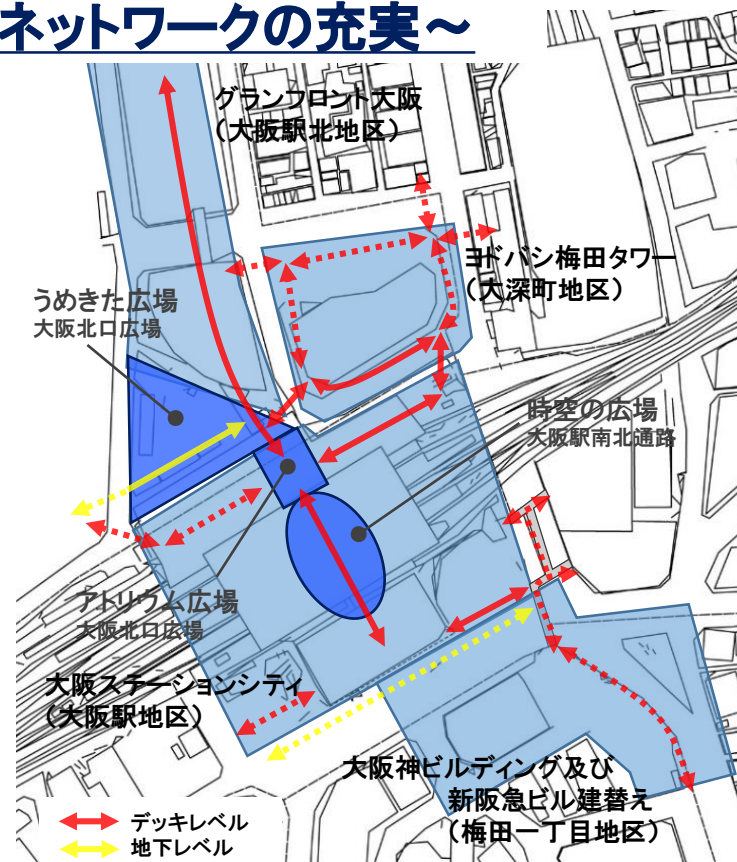
地区周辺の回遊性向上を図るため、グランフロント大阪、JR大阪駅、阪急梅田駅方面とを結ぶデッキを整備



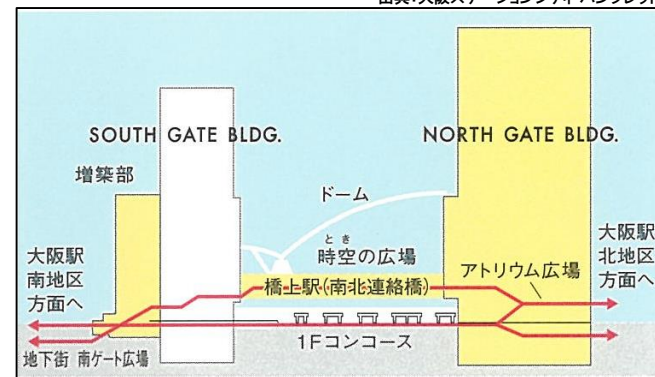
歩行者デッキ（JR大阪駅方面）



歩行者デッキ（グランフロント大阪方面）



出典：大阪ステーションシティパンフレット



5. 都市の活力 ～都市のランドマーク創出と景観の保全～

○中之島四ツ橋筋地区 都市再生特別地区



フェスティバルタワー

○大阪駅地区 都市再生特別地区



大阪ステーションシティ

○阿倍野筋一丁目地区 都市再生特別地区



あべのハルカス

○心齋橋筋一丁目地区 都市再生特別地区



大丸心齋橋店
御堂筋に残る大阪の歴史や文化を継承
(ヴォーリズ建築:御堂筋側の外壁を保存)

○今橋三丁目地区 都市再生特別地区



日本生命東館

歴史・文化的な資産を多く有する地域にふさわしい風格ある街並みを形成



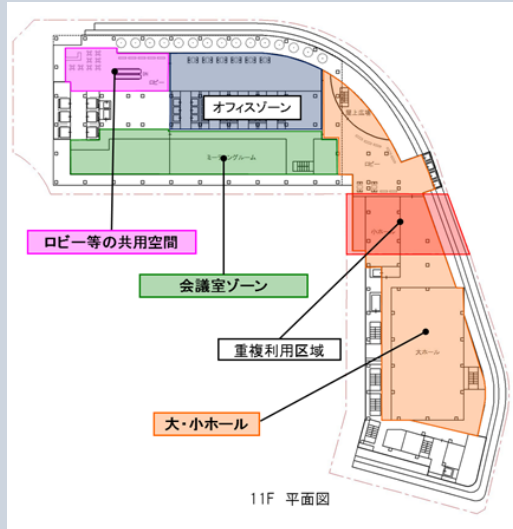
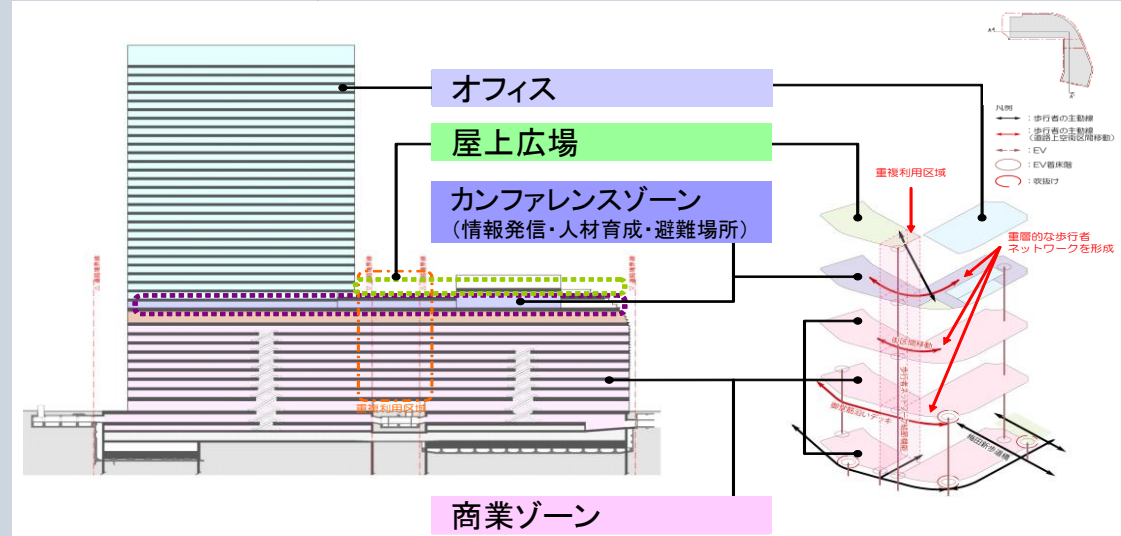
無電柱化



本館のライトアップ

6. 道路の上空利用 ～国際競争力の強化と回遊性の向上～

○梅田一丁目地区 都市再生特別地区



商談型の見本市・展示会
に対応したカンファレンス
ゾーンを一体的に整備

○心齋橋筋一丁目地区 都市再生特別地区



外国人観光客に対応したインバ
ウンドセンターとして、ワンスト
ップ型観光案内、日本の文化体験
ゾーン等を一体的に整備